

大分市 感染者勤務先無断で公表

会社と協議中「注意喚起」

新型コロナウイルスに感染した大分市の30代女性に
関し、市が女性側の了承を
得ずに勤務先の飲食店名を
公表していたことが6日、
分かった。店の運営会社が
市に非公表を要請している
最中に、市は臨時会見で店
名を明らかにした。市は「注
意喚起のため、いち早く公
表した」としているが、同
社は「協議中の公表は納得
できない」と訴える。

市は3日午後2時から感
染確認の会見を開いた。市
と運営会社によると、市職
員と同社幹部は同時刻から
店名公表や今後の対応につ
いて協議。市側は同社に会
見では女性の職業を「接客
業」と公表すると説明。同
社は従業員のケアや周りの

飲食店への影響に対応する
ため、店名を非公表とする
よう要請した。だが、臨時
会見では佐藤樹一郎市長が
店名を公表した。

同社常務の中西正志さん
(57)は「状況を鑑みれば、い
ずれは公表せざるを得ない
とも考えていた。それを話
し合おうとした時に公表さ
れ、残念だ」と強調。市担当
者は「不特定多数と接触し
た可能性があり、感染経路
特定や拡大防止のために公
表した。説明が足りず、迷惑
をかけたのは申し訳ない」
としている。市幹部は会見
後に同社幹部に謝罪した。

広瀬弘忠東京女子大名誉
教授(災害リスク学)は「感
染者に関する公表は、拡大
防止とプライバシー保護の

両立が重要」とした上で、
「今は感染経路の特定は難
しく、どこで誰が感染して
もおかしくない。一方、興
味本位による感染者の過剰
な探索が横行し、個人の尊
厳が守られないケースも散
見される。大分市は急いで
店名を公表する理由はあつ

たのか」と疑問を呈してい
る。
(岩谷瞬)